

**業況DIの現況判断は▲47、先行きは8p悪化の▲55を見込む
～コロナ禍と豪雨災害の影響が続き依然として厳しい情勢～**

【今回調査の結果概要】

- 業況DIの現況判断は▲47で、先行きは8ポイント（以下、p）悪化の▲55。
- 項目別では売上高DIの現況判断が▲47、営業利益DIは▲52となった。先行きは、売上高DIが11p悪化の▲58、営業利益DIは12p悪化の▲64。
- 労働力DIの現況判断は▲28、先行きは16p上昇の▲12。

（注）DIについて

業況判断、売上及び利益の増減、設備、労働力、在庫の過不足などについて、以下の式により、各項目のDIを算出。

$$DI = (\text{「良い」、「増加」、「上昇」、「過剰」とする回答企業の構成比}) - (\text{「悪い」、「減少」、「下落」、「不足」とする回答企業の構成比})$$

例) 業況が良いと回答した企業が15%、普通と回答した企業が64%、悪いと回答した企業が21%

⇒ 15（良いと回答）－ 21（悪いと回答） で 業況判断DIは▲6（マイナス6）

【調査の対象・期間・方法等】

1. 調査対象企業	人吉市内会員事業所 231 事業所
2. 調査時期	令和3年2月5日（金）～3月1日（月）
3. 対象期間	令和2年 7月～9月（令和2年度 第2四半期） 同 年10月～12月（同 年度 第3四半期） 同 年 1月～3月（同 年度 第4四半期） ※3期分の調査を今回同時実施
4. 回答状況	99 事業所（回収率 42.9%）

【回答企業数と構成比】

業 種	企業数 (社)	構成比 (%)	業 種	企業数 (社)	構成比 (%)
製造業	15	15.2	飲食業	14	14.1
建設業	15	15.2	サービス業	20	20.2
観光関連業	7	7.1	業種不明	2	2.0
卸・小売業	26	26.3	全 体	99	100.0

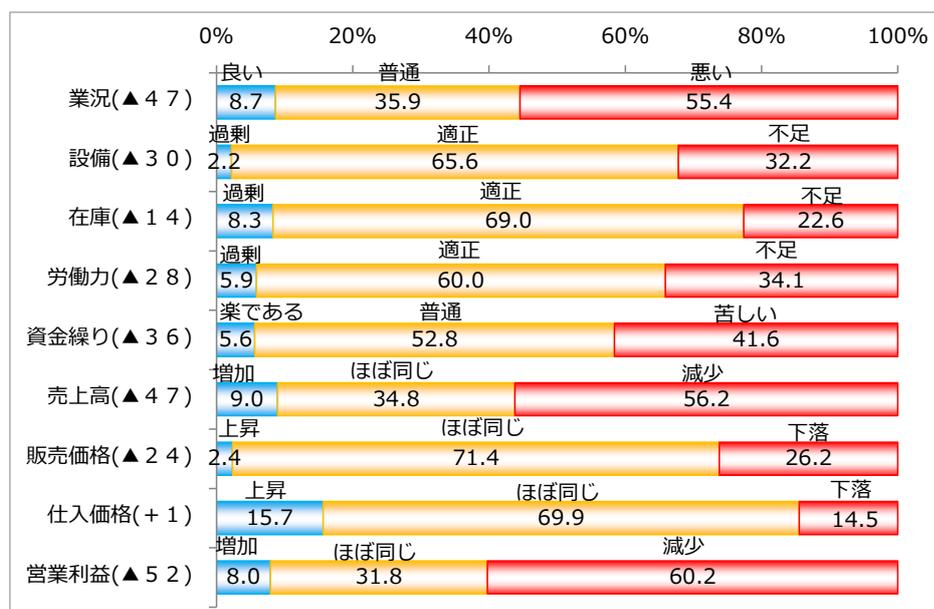
1. 概況

各項目の現況判断の回答結果は図表1のとおりである。

業況は「悪い」という回答が55.4%で最も多く、「良い」が8.7%、「普通」が35.9%となっている。業況D Iは▲47となっており、前期（令和2年10～12月期）より6p悪化している。

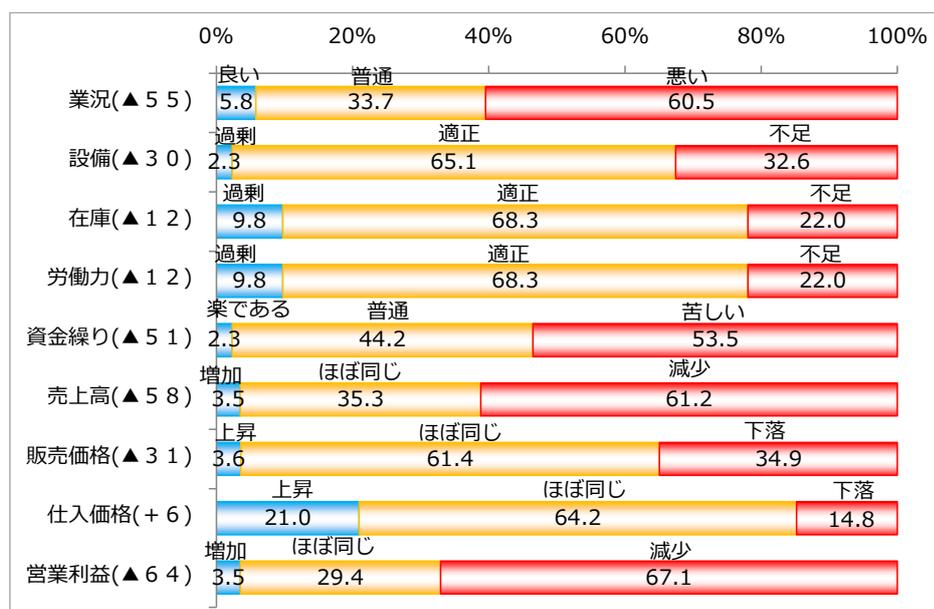
項目別にみると、売上高D Iは▲47で、減少という回答が56.2%となっている。また、営業利益D Iは▲52で、減少という回答が60.2%となるなど、コロナ禍と豪雨災害による影響等で厳しい状況がうかがえる。一方、労働力D Iは▲28で、依然として人手不足の状況ではあるものの、コロナ禍の影響等で人手不足感が弱まっていることがうかがえる。

図表1 項目別の現況判断



※項目名の () 内の数字はそれぞれの調査項目のD I

(参考) 項目別の先行き判断



2. 調査項目ごとの状況

(1) 業況D I

業況D Iの現況判断は▲47で前期比6p悪化した。業種別にみると、前期に比べて、「建設業」で改善しているが、「サービス業」で横ばい、その他の業種では悪化している。

先行きは8p悪化の▲55で、業種別では「卸・小売業」、「飲食業」で改善、「観光関連業」で横ばい、その他の業種では悪化している。

図表2 業況D I

	2020年 4～6月期	2020年 7～9月期	前回調査比	2020年 10～12月期	前回調査比	2021年 1～3月期	前回調査比	2021年 4～6月期 (先行き)	今回調査比
	全体	▲ 73	▲ 58	↗	▲ 41	↗	▲ 47	↘	▲ 55
製造業	▲ 91	▲ 86	↗	▲ 57	↗	▲ 64	↘	▲ 69	↘
建設業	▲ 36	▲ 20	↗	▲ 20	→	▲ 7	↗	▲ 27	↘
観光関連業	▲ 100	▲ 100	→	▲ 60	↗	▲ 100	↘	▲ 100	→
卸・小売業	▲ 54	▲ 57	↘	▲ 48	↗	▲ 50	↘	▲ 48	↗
飲食業	▲ 100	▲ 82	↗	▲ 60	↗	▲ 100	↘	▲ 89	↗
サービス業	▲ 81	▲ 40	↗	▲ 15	↗	▲ 15	→	▲ 47	↘

(2) 売上高D I

売上高D Iの現況判断は▲47で、前期比2p悪化した。業種別にみると、「建設業」と「サービス業」が▲20で水準が最も高い。前期比では、「サービス業」で改善、「卸・小売業」で横ばい、その他の業種で悪化している。

先行きは11p悪化の▲58で、業種別では「製造業」と「飲食業」で改善、「観光関連業」は横ばい、その他の業種では悪化している。

図表3 売上高D I

	2020年 4～6月期	2020年 7～9月期	前回調査比	2020年 10～12月期	前回調査比	2021年 1～3月期	前回調査比	2021年 4～6月期 (先行き)	今回調査比
	全体	▲ 75	▲ 56	↗	▲ 45	↗	▲ 47	↘	▲ 58
製造業	▲ 82	▲ 79	↗	▲ 57	↗	▲ 64	↘	▲ 43	↗
建設業	▲ 50	▲ 13	↗	▲ 13	→	▲ 20	↘	▲ 40	↘
観光関連業	▲ 100	▲ 100	→	▲ 60	↗	▲ 100	↘	▲ 100	→
卸・小売業	▲ 54	▲ 54	→	▲ 44	↗	▲ 44	→	▲ 63	↘
飲食業	▲ 100	▲ 78	↗	▲ 82	↘	▲ 100	↘	▲ 88	↗
サービス業	▲ 86	▲ 50	↗	▲ 32	↗	▲ 20	↗	▲ 53	↘

(3) 営業利益D I

営業利益D Iの現況判断は▲52で前期比4p悪化した。業種別にみると、前期に比べて、「卸・小売業」と「サービス業」で改善、その他の業種で悪化している。

先行きは12p悪化の▲64となった。業種別では「製造業」で改善、「観光関連業」と「飲食業」で横ばい、その他の業種では悪化している。

図表4 営業利益D I

	2020年	2020年	前回調査比	2020年	前回調査比	2021年	前回調査比	2021年	今回調査比
	4~6月期	7~9月期		10~12月期		1~3月期		4~6月期 (先行き)	
全体	▲ 77	▲ 60	↗	▲ 48	↗	▲ 52	↘	▲ 64	↘
製造業	▲ 91	▲ 79	↗	▲ 57	↗	▲ 64	↘	▲ 43	↗
建設業	▲ 57	▲ 29	↗	▲ 21	↗	▲ 33	↘	▲ 47	↘
観光関連業	▲ 100	▲ 100	→	▲ 60	↗	▲ 100	↘	▲ 100	→
卸・小売業	▲ 62	▲ 63	↘	▲ 52	↗	▲ 48	↗	▲ 71	↘
飲食業	▲ 100	▲ 78	↗	▲ 64	↗	▲ 100	↘	▲ 100	→
サービス業	▲ 76	▲ 45	↗	▲ 37	↗	▲ 26	↗	▲ 58	↘

(4) 労働力D I

労働力D Iの現況判断は▲28で、前期比8p上昇した。依然として人手不足の状況ではあるものの、コロナ禍の影響等で人手不足感が弱まっていることがうかがえる。業種別では、「サービス業」で低下、「観光関連業」で横ばい、その他の業種では上昇している。

先行きは16ポイント上昇の▲12となった。業種別では、「製造業」と「観光関連業」で低下、その他の業種では上昇している。

図表5 労働力D I

	2020年	2020年	前回調査比	2020年	前回調査比	2021年	前回調査比	2021年	今回調査比
	4~6月期	7~9月期		10~12月期		1~3月期		4~6月期 (先行き)	
全体	▲ 19	▲ 38	↘	▲ 36	↗	▲ 28	↗	▲ 12	↗
製造業	27	7	↘	▲ 7	↘	0	↗	▲ 29	↘
建設業	▲ 38	▲ 50	↘	▲ 57	↘	▲ 33	↗	▲ 29	↗
観光関連業	40	▲ 60	↘	▲ 60	→	▲ 60	→	▲ 75	↘
卸・小売業	▲ 38	▲ 43	↘	▲ 33	↗	▲ 21	↗	8	↗
飲食業	▲ 20	▲ 70	↘	▲ 33	↗	▲ 22	↗	0	↗
サービス業	▲ 41	▲ 37	↗	▲ 42	↘	▲ 45	↘	▲ 6	↗

3. 地域経済や業界動向等に関する自由記述

業種	コメント
卸小売業	3月はコロナ禍でお客様があまり動かず、5月は母の日のイベントがショッピングモールの閉鎖で最も売れる時期を逃した。7月の被災で支店のみでの営業となっている。一番売れていた本店だったので不安であった。
	7月の大水害の被災により、11月2日まで休業した。その後もコロナの影響で先行き不明。
	コロナ禍で売上げが3分の1に減少し、7月4日の豪雨災害にて店舗が消失した。得意先も半分以上被災し、再建途上のため、あと数年は売上げが半減すると思われる。また、1月からの休業、時短要請の影響で売上げは20分の1に減少した。
	新型コロナの影響、水害で小売りが出来ない状況で、売上げが半減以下でとても苦しい状況。
	人口減少・賃金上昇・増税と、今まで通りでは、企業が成り立つことは難しいと思う。コロナでより加速しており、自助努力ではどうにもならない企業も出てくるかと思う。そうならない様、普段からの計画が必要。
観光関連	昨年10～12月期の売上の増加は、被災者のホテル避難所となり、宿泊料を頂いたため。
	水害後で先行きの見通しが無い。コロナの影響も不安がぬぐえない。
	豪雨被害のため休業中。再開は令和4年6月頃を想定。
飲食業	2020年4月からコロナ感染拡大のため休業。2020年7月から豪雨災害により被災したため休業中。
	今年は本格的に会社の設備等の工事に入る予定であるが、このままの売上の状況では、借入れたとしても返済の不安が残る。
	昨年7月から10月までの水害のため事業を休業。11月から仮店舗で再開。
	コロナに加えて、昨年水害により店は全壊。営業していない。
サービス	原油高と人手不足で困っている。求人を出しても誰も来ない。
	災害により、一時的に仕事量が増加する業種もあるが、今後を考慮すると、いずれ減少傾向になるであろう。
	水害後、7/5から7月末までは住まいを求める人で大変であった。8月には物件がゼロになったが、水害で被災した物件のリフォームが終わり、令和3年に入って、少しずつ物件が出てきた。
建設業	被災企業等の「なりわい補助金」による復旧・復興の工事が増大してくるが、労働者（職人）の不足により、受け皿として十分な貢献が困難である。
	被災しておらず、直接の影響はないが、今後の先行きが心配。
製造	水害以降、売上げは全く取れていない状況。設備は元通りになり、これからという時に、コロナの影響で、イベント等が中止。また、営業活動の自粛もあり、先行きがとても不安。設備導入で多額の負債を抱えている。
	令和2年の大水害にて、店舗・工場・設備、すべてを失った状態となり、再建には甚大資金が必要となった。後継者もいないため閉店した。

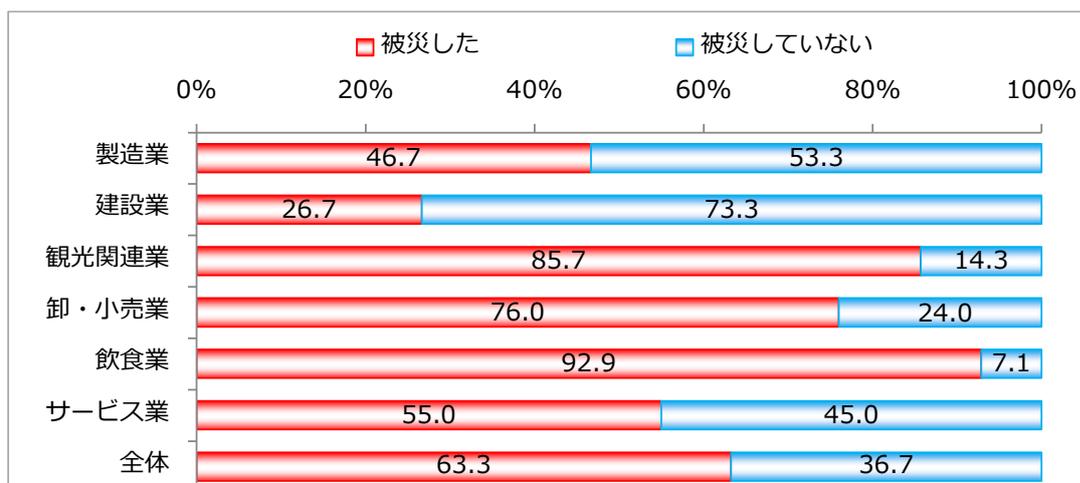
4. 特別テーマ「令和2年豪雨災害の影響について」

(1) 被災状況

昨年7月の「令和2年豪雨災害」による店舗・事務所等の被災状況を尋ねたところ、「被災した」という回答が63.3%で、「被災していない」が36.7%となった。

業種別にみると、「被災した」という回答は「飲食業」が92.9%で最も高く、以下、「観光関連業」(85.7%)、「卸・小売業」(76.0%)が続いている。一方、「被災した」という回答が最も低かったのは「建設業」の26.7%であった。

図表6 「令和2年豪雨災害」による被災の有無

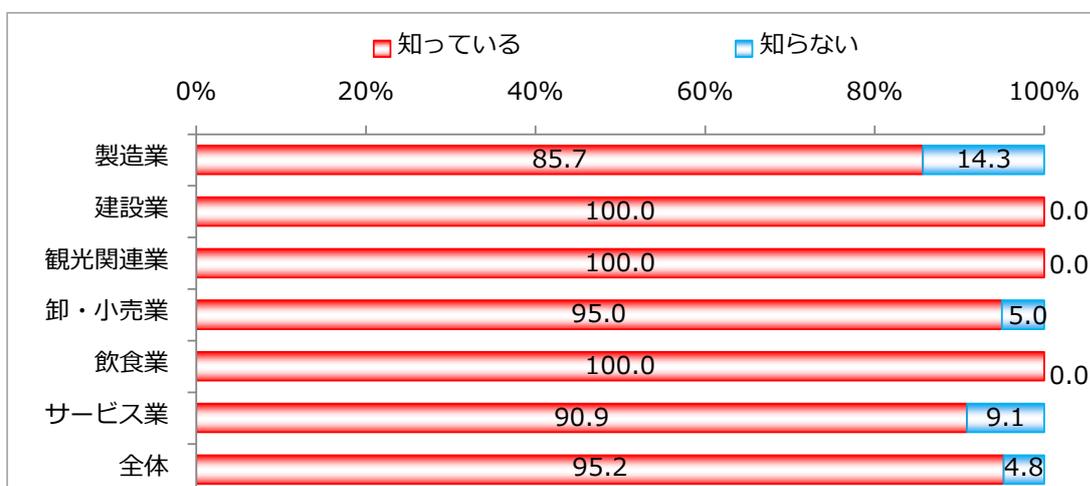


(2) 「なりわい再建支援補助金」の認知度

「令和2年豪雨災害」で被災した事業者には「なりわい再建支援補助金」の認知度を尋ねたところ、「知っている」という回答が95.2%で、「知らない」という回答は4.8%にとどまった。

業種別にみると、「建設業」、「観光関連業」、「飲食業」ではすべての事業者が「知っている」と回答している。最も低かった「製造業」でも認知度は85.7%にのぼった。

図表7 「なりわい再建支援補助金」の認知度



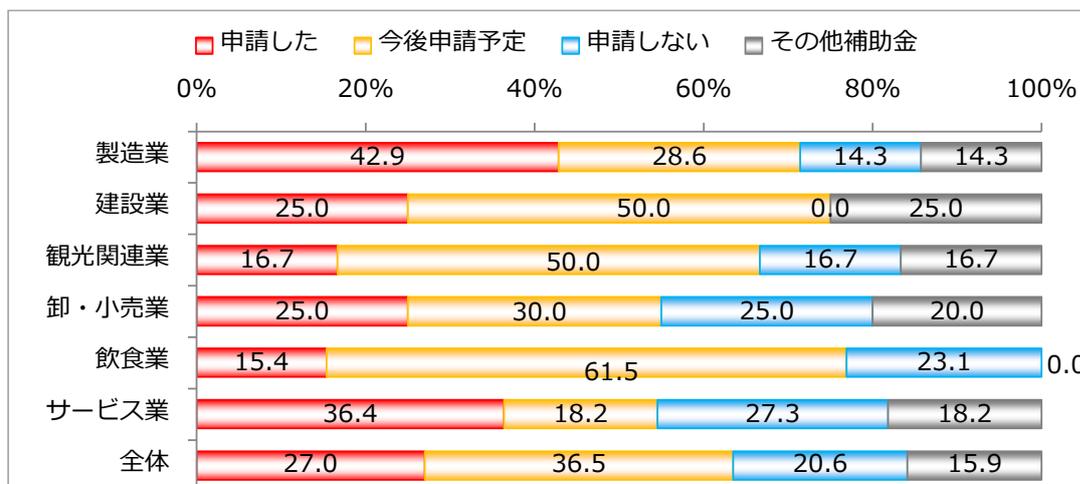
(3) 「なりわい再建支援補助金」の申請状況

被災事業者に「なりわい再建支援補助金」の申請状況について尋ねたところ、「申請した」という回答が27.0%、「今後申請予定」は36.5%で、合計では63.5%となった。

業種別にみると、「申請した」と「今後申請予定」という回答の合計では、「飲食業」が76.9%で最も高く、以下、「建設業」（75.0%）、「製造業」（71.5%）と続いている。なお、「飲食業」では実際に申請した事業者は16.7%にとどまっている。飲食業は、比較的小規模の事業所が多いと思われるため、補助金申請の実務手続き等が課題となっている可能性もある。

なお、申請しない理由では、「保険からの支払」や「廃業」等をあげるコメントがみられた。

図表8 「なりわい再建支援補助金」の申請状況

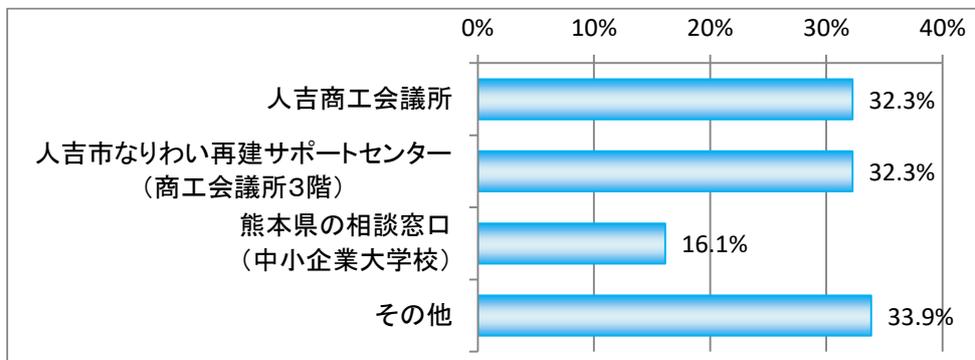


(4) 補助金申請の相談先

被災事業者に「なりわい再建支援補助金」の申請についての相談先を尋ねたところ、「その他」という回答が33.9%で最も多く、以下、「人吉商工会議所」と「人吉市なりわい再建サポートセンター」がともに32.3%で続いた。

その他の回答の内訳をみると、「行政書士」という回答が8件で最も多かった。

図表9 補助金申請の相談先



※その他の回答（自由記述）

行政書士（8件）、コンサルタント（2件）、税理士（2件）、青井の杜（2件）、
会計事務所（1件）、自己判断（1件）、本社対応（1件）

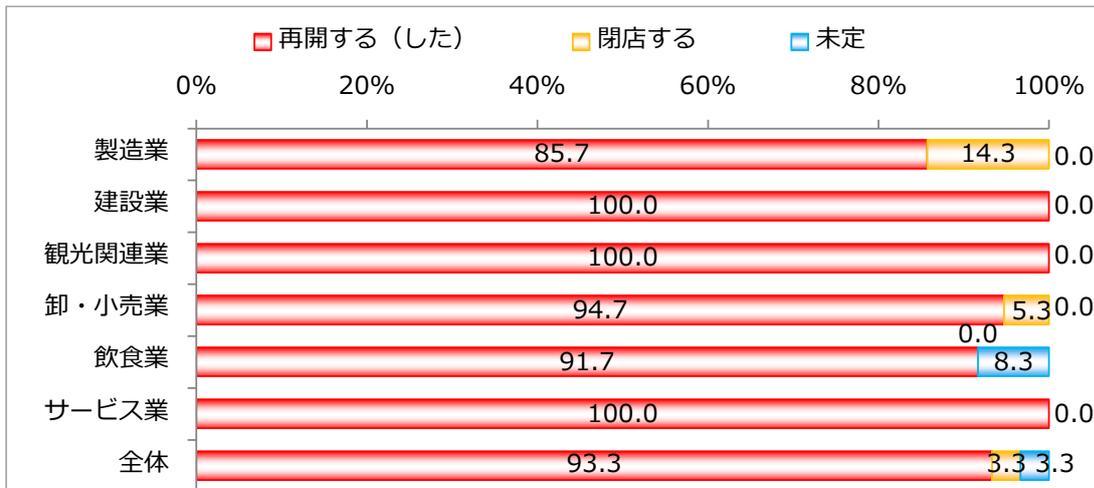
(5) 今後の予定

被災事業者には今後の事業予定を尋ねたところ、事業を「再開する（した）」という回答が93.3%で、「閉店する」、「未定」という回答がともに3.3%であった。

業種別では、「建設業」、「観光関連業」、「サービス業」ではすべての事業者で「再開する（した）」と回答している。一方、「製造業」では「閉店する」という事業者が14.3%で、6業種の中では最も多くなった。

なお、再開場所については、「同じ場所」という回答が91.7%、「移転する」という回答が8.3%となった。

図表10 今後の予定



(参考) 再開場所



(6) 豪雨被害に関する自由記述

業種	コメント
卸小売業	同じ場所で再開しようと思うが、店舗の周りの半分は解体され、更地になった。今からもっと解体が進むかと思うと、先行きが大変不安である。また、得意先が再建できるのに、あと何年かかるかと思うと、夜も目が覚めて毎日眠れない。
	仮店舗にて営業を開始しているが、これから先の事業継続には大きな不安がある。店舗の数が増えても、市場が小さくて先が見えない状態。コロナ禍を含め、復興のためには人吉型の計画を出してほしい。
	考えた事もない所へも水が迫っていたのには絶句。今後もっと酷い災害が起こるのではないかと危惧している。
	豪雨災害については日本中どこでもあり得る事ですが、コロナの影響で復興も進まないし、何と言っても人の動きがない事で、売り上げにも影響があり、資金がいつまで続くか不安。
	被害申請や補助金についての市の対応が、いつまでもぬるく、広報が機能していない。結果、復興が進まず、あちこちで、もたつき、景気回復を遅らせている。お客様が持ってきた、なりわい補助金の書類も何回書き直したことが。
	水害により店舗、住居が被災し、何も無い状況になり、不安いっぱいだったが、何とか再出発の目途が立った。
	直接被害はなかったが、卸していた取引先の店舗が被災し、売上減少。色々な助成金・ヒットビス・商工会の支援により持ちこたえられている。新商品開発で機械の導入の助成があれば助かる。
	店舗は被災していないが、地域の復旧作業のため、1ヶ月休業した。
	当社は文具売り場が被災し、商品・空調・床など、相当部分が水没したが、半年間かけてようやくリニューアルオープンする事が出来た。
被災したが、色々な支援を考えて頂き前向きに向き合っている。ただ、被災した高齢の事業者等は申請資料のハードルが高く、廃業していく方々がいる。それにより雇用も失われていくので、柔軟なやり方をしてもらえると助かる企業・個人もあると思う。	
観光関連	補助金申請が複雑すぎる。復旧や修復にも時間がかかるのに。
飲食業	自然災害なので仕方がないが、木造とか、鉄骨とかで補償が全く違ってくるのはどうかと思う。水深は同じだし、水没して使用不能な事は同じなのに、非木造だからってことで、片づけられるのは納得いかない。
	市全体の街づくりの将来像が災害にあった後みえない。このままでは、ダムが出来る間に再度被災することも考えられ、心配している。
	天災だから仕方がないが、今年の梅雨が心配。球磨川の底が上がっていて、このままでは去年以上の被害が。元の人吉球磨に戻るのは10年後だろうか？この地で商売を続けられるか毎日考えている。5年、10年後のため、今しかできない事、街づくり（街並みの条例、デザイン、保存地区など）を考えないと。
なりわい補助金を使っても、手出しの金額が多く、借入れ後の返済に不安が残る。そもそも、昨年、設備投資とコロナの借入れがあったため、今後借入れが出来るか心配である。	
サービス	コロナ、豪雨災害と続き、葬儀規模の縮小と人口減少で先行きの見通しが悪い。

業種	コメント
サービス	最大の原因の球磨川の川底の管理のルーズさを強く感じた。その結果多くの人々と財産を喪失したことに国の責任の大きさを強く感じた。これから先、多くの商店の再開が失われる事を残念に思う。
	水害で当社の管理物件も浸水したが、2月末までには9割がリフォームを終わり、3月の転勤時期に間に合いそう。
	店舗・事務所に被害はなかったが、当社の分譲地、販売地が被災したため、価格の値下げをしなければならなくなった。また、売れ残っている土地もあり、今後も売却は困難であると考えている。
	なりわい補助金の使いにくさを改善してほしい。行政の常識は民間の非常識。
	人吉球磨の早期の復旧・復興を望む。肥薩線・くま川鉄道も早く復旧して欲しい。
建設業	建設業なので被災された方々が、家を建て直せる段階に来ていれば、仕事の注文は増えてくると思われるが、人手不足なので限度がある。それが悩み。
	加工場が被災したが、在庫品（木材等）の資材に対して何の補償も得られなかった。災害復旧工事等の受注は見込めるが、当社が主としている型枠工事に関しては、3～4月、それ以降も受注の見通しが立っていない。土木工事業への転換もコストと時間が必要で厳しさを実感している。
	被災者の住宅支援をして人吉の町の空洞化を防ぐことが必要だと思う。
	弊社は測量設計会社。令和2年7月4日の災害にて県・市町村より業務委託があり忙しい毎日を送っている。3～4月頃まではかかると思う。
	未曾有の災害でコロナ禍とあいまって、地域の疲弊が心配されるが、一步ずつ復旧復興へと進んでいかなければならない。
	持続化補助金に申込み、採択を受けたが、期間が短すぎて、実働的にも書類作成時間にも余裕がなかった。もう少し期間の余裕が欲しい。
	当事務所は被災していないが、被災された事業者からの、なりわい再建に伴う設計図、見積書（原型復旧に伴う）の作成依頼が多々あっている。
製造	後継者もいなかったなので再建はしないことにした。
	甚大な被害を受けましたが、多くの方々のご支援のおかげで、早期に製造を再開することが出来た。
	被災した人吉球磨の皆様は、大変なご苦労が続いていると思うが、皆で一緒に復興に邁進したい。頑張ろう人吉球磨、コロナ禍に負けるな。